

シンポジウム「私の卒業研究を振り返って～大学で学ぶというコト～」

卒業論文題名

限界集落と地域再生ー地域で暮らす人々の幸せとはー

- ・ テーマを選んだ動機
地元である四国→過疎化
・・・全集落の20パーセント以上が限界集落！？
- ・ 主張したかったこと
変えなければならない？本当にマイナスなのか
- ・ 調査の結果わかったこと
「若者の定住」「都市との交流」「地域ブランドの形成」
「地域の伝統行事の見直し」「住民参加と自己負担」

私の提案「農業の可能性と産地直売所」

- ・ 作成過程で苦勞したこと
京都府綾部市への視察→実際にいってみることが大事！
何が分かったか、わからなくても「空気に触れる」というだけでかなり違う。
- ・ 感想
肯定的な限界集落の見方
論理的な文章構成とは
- ・ 大学4年間の学びを振り返って
人との出会いが全て
本を読むことである程度補完できる、かもしれない
迷ったことは納得いくまで調べる→やってみる
- ・ 一年生にメッセージ
オープンな気持ちを大切にしよう

山本 真一

僕は「限界集落と地域再生」というテーマで卒業論文を書きました。大学4年間の学びを振り返ってという話からしたいと思います。人との出会いがすべてだったと思っています。もちろん本を読んだり、その中で学ぶこともたくさんあったんですが、直接それを経験した人から話を聴くことで、さらに体験を身近に感じることができたということが、とても大きかったと思います。本や新聞は書いた人のフィルターがあると思うんですが、そういうところを通さずに自分で感じたことを大事にしたいなと思いました。

これからいろいろ勉強していく中で、好きでないフィールドがあるかもしれませんが、与えられた課題の中で好きな方へ巻き込んでいくような姿勢でやっていったら、そんなに、しんどくはならないのではないかなと思っています。僕自身も大学4年間で、福祉分野以外でも資格試験やTOEICなど語学関係の勉強をしましたが、そういうところで勉強するために、やっていたら面白くないと思いますが、その先に外国の人たちと仲良く話せるようになりたいとか、楽しむためにという動機があれば、また違ってくるのではないかなと思いました。

オープンな気持ちを大切にしよう。いろんなことを経験すると思いますが、すべてから学んでやろうという気持ちを大事にしてほしいと思います。

卒業論文の内容に入ると、僕は四国の香川県出身で、新聞を読んでいた時に「限界集落」という耳慣れない言葉が報じられていました。限界集落というのは65歳以上が50%以上を占める地域のことを言います。私の住む四国でも全集落の20%が限界集落であると報じられていました。東京などの都市部への人口が集中する中で、地方の現状は私たちにとって、どういう取り組みや心構えが必要なのかを調査したものです。さまざまな調査の結果、わかったこととして、5つあげています。その中で面白かったものを紹介したいと思います。

新聞記事からの抜粋ですが、長野県の北部の中条村、そこでは農産物を加工業を営む夫婦の方が「限界集落一番」というブランドで味噌を売り出しています。高齢化が進む村だからこそ、昔ながらのおいしいものがあるという思いを込めて、自筆で、そのように書いて売りだしたところ、産地直売所で1個600円の筍が、これまでにない勢いで売れはじめたということです。そういう真面目に野菜を育てる農家の姿が思い浮かぶのではないかと夫婦で話しているということです。これまで限界集落といえば高齢イメージが強く、マイナスイメージだと考えられていたものが、逆の発想で魅力に変えていこうという取り組みを見ることができました。

他にも伝統行事とか、その地域特有のさまざまな魅力があると思いますが、昔からあるものこそ、これから大事にしていかなければならないな、ということがわかりました。僕が大事にしていたのは現地に行くということです。京都府の北の方に綾部市があります。そこへ視察させていただいて、実際にそこに住む地域の方と交流させていただきました。そこで見たものは、同じ京都府ですが、違う環境で、コンビニはないですし、プレハブのような簡単な売店があるだけ。もちろん交通は不便ですが、そういうところにこそ魅力があるということを身を持って知ることができました。そういうところを1年生の皆さんも大事にしてほしいと思いました。

これから生活していく中で、楽しくないことがあった時、楽しくないな、で終わるのではなく、楽しむために努力をしているのかな、と考えてもらいたいと思いました。僕自身、大学4年間で楽しくなかった時もありましたが、そういう中で何とか楽しめたらいいのかなと考えた時、自分の福祉分野であったり、今回の地域活性化とか、そういうことに関連づけて覚えることで、案外、楽しいところもあるんだなと、見ることもできたので、皆さん、趣味とか勉強で、楽しいこともあると思うので、そこをどんどん伸ばしていって大学4年間で過ごしてもらいたいと思います。以上です。ありがとうございました。

限界集落と地域再生

—地域で暮らす人々の幸せとは—

19062091

山本 真一

<キーワード> 「肯定的限界集落」「活性化か維持か」「農業の可能性」

<梗概>

限界集落とは65歳以上の人口が50パーセント以上を占める集落のことであり、その数は全国的に急増している。まず様々な新聞記事より、各地の現状と対策を紹介した上で、共通点やそこから見える新たな課題を模索した。特に限界集落と聞くと「変えなければならない」というマイナスイメージが強い一方、外部から強い力を加えることで失ってしまう地域色というものも存在する。そのような実態を確かめるべく京都府綾部市へフィールドワークを行い、現場で働く人の話を聞くことでさらに理解を深めた。

また、スウェーデンにおける地域の活性化を例にとったうえで、高齢化に向けた対策はもはや日本だけの問題ではなく、世界規模で互いに協力し合わなければならないという新たな視点も必要ということが分かった。

最後に、地域活性化の鍵として農業に焦点を当て、直売所や若者の農業への関心など将来的な地域活性化の行方について考察した。

<目次>

第1章 はじめに	第4章 ヨーロッパでの取り組み
第1節 動機	第5章 国の対策
第2節 限界集落とは	第6章 おわりに
第2章 各地の現状と対策	第1節 これからの課題
第1節 若者の定住	第2節 結論
第2節 都市との交流	参考文献
第3節 地域ブランドの形成	
第4節 伝統行事の見直し	
第5節 住民参加と自己負担	
第3章 フィールドワーク	
第1節 訪問を終えて	